

えんぼとたんぼの始発駅

里山ビオトープ二俣瀬

会 報 第 142 号

2013年5月23日

里山ビオトープ二俣瀬をつくる会

編集責任者：原谷 一誠

1. 活動報告（事務局 記）

—5月5日（日）3月以来伸びてきました草の刈り取りを行いました。その他当会保全範囲の水路の草刈と溝上げ・駐車場の草刈を15名の参加会員によって行いました。

—5月18日（土）25年度「宇部環境コミュニティ」の総会がありました。
当会より今井会長と田村副会長と他1名が出席されました。

—5月18日（土）親子自然観察隊「野鳥観察」

宇部野鳥の会より3名の講師を仰ぎビオトープから厚東川東堤防を散策し、26種の野鳥を目撃と鳴声を聴きました。日あたりも強く時間帯も少し遅れて心配しましたが予想以上の野鳥の観察が出来ました。

隊員21名（親10名含む）、ジュニア3名、つくる会世話人15名と近くの親子の参加で総勢41名でした。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎見学者 — 現在のところ計画は有りません

◎行 事

—6月2日（日）維持活動（エコアップ、修復作業）

—6月15日（土）親子自然観察隊（田植え）

3. 来訪者の声

—4.27—

私は今日初めてここにいます。どうしてここに導かれたのか？答えを探しています。

昨日色々な事があった。（大谷 拓）

4. 会員の声【 母の日 】 （ 内藤武顕 記）

五月第二日曜日は母の日。今はすっかり定着する。母の愛に感謝をささげる日である。亡き母を偲ぶ者は白、母存命の者は赤のカーネーションを胸に飾る習慣である。

この由来は北アメリカのウエブスターの町にあるメソジスト教会でのある出来事からである。アンナー ジャーヴィストという女性が母追憶のため胸に抱いていた白いカーネーションを教友に分け与えたという小さな愛が始まりの様である。

そして1908年のこの日を国際母の日として全世界に提唱されることになる。日本でも大正2年（1913年）導入されて以来、戦後急速に一般化される。母への敬愛と感謝の念を表す日本でのこの習慣は今年で100年目を迎える事になる。

俳句を通し時の流れを省みる。作者名は伏します。

- ・母の日の 手のひらの味 塩むすび

- ・母の日も 子の残したる ものを食べ

- ・母の日や まだ二つ買う 赤き花

- ・宅急便 来て母の日に 誰も来ず

- ・母の日や 健康食品 贈らるる

ついでに父の日も一句

- ・父の日や ゆったりせよと 座椅子着く

5. 親子自然観察隊 「野鳥観察」

週間天気予報では、曇りのち雨の予報でしたが、幸運にも朝から晴れ、さわやかな五月晴れのもと楽しく野鳥の観察を行うことができました。

講師には、「宇部野鳥保護の会」より2名の方が来てくださったほか、保護の会事務局長の渡部さんからも臨時に出席をいただき、ビオトープの行事のPR、観察隊員へのワンポイント学習などをいただき、有意義な観察会を行うことができました。

野鳥も鳴き声を含め27種類と、保護の会の事前調査のおかげもあって、わずかな距離での観察ながら、思った以上に数多くの野鳥たちを眼にすることができました。お天気に恵まれたことや季節により、多くのツバメの飛翔と、空高く舞いあがったのヒバリのさえずりなどを、まじかに見ることができ、隊員たちも熱心に双眼鏡や望遠鏡を覗いていました。

<鳴き声、目撃された鳥>

ミサゴ、ハチクマ、トビ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、キジバト、ドバト、ダイサギ、チュウサギ、アオサギ、カルガモ、カワウ、キジ、ヒヨドリ、コゲラ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ホオジロ、カワラヒワ、ヒバリ、ツバメ、スズメ、ウグイス、ヤマガラ、シジュウガラ、ホトトギス、コチドリ。

親子自然観察隊 (5月18日 野鳥の観察) に参加した親子の感想



★大井千晶さんと千智さんのお母さん

今日は、過ごしやすい天気でもとても陽気な野鳥観察でした。他の活動よりはあまり感心がないかなと思いきや、双眼鏡というレンズ越しに見える野鳥がとても新鮮だったのか、菅隊長や野鳥の会の方々の双眼鏡などでは、プロ並みの顔つきで観察していたので、我が子の新たな一面を発見することが出来ました。

やっぱり、自然界は素晴らしいものを我々に与えてくれますね。来月田植え頑張ります!!!



★金子実侑さん

いろいろな鳥のしゅるいがわかりました。カワウとカワラヒワは初めて見ました。見たことのない鳥が見られてうれしかったです。観察した鳥を、また見つけてみたいです。

★金子玲子さん (母)

鳥の鳴き声や姿を見かけても、なかなか名前までわかりませんでした。観察会では、姿や鳴き声、飛び方の特徴などを教えていただき、楽しく観察することができました。ありがとうございました。



★阿部真愉さん

今日のビオトープで一番びっくりしたのは、ツバメがわたしの頭の近くを飛んだ事です。鳥が何羽もいました。みたことも名前も知らなかった鳥が何羽もいたのでびっくりしました。鳥の観察はとても楽しかったです。

★阿部さん(母)

野鳥観察の日はお世話になりました。雨にならずよかったです。野鳥の種類によって飛ぶかたに特徴があり大変興味深かったです。時間内でとても多くの種類の野鳥を観察出来た事にも驚きました。

ビオトープは野鳥の宝庫ですね。



★藤井美早さん

つばめが低くとぶとなぜ雨になるかよくわかった。

★藤井さん(母)

野鳥の会の方の目のよさと、耳のよさにびっくりしました。興味を持って見てみると、なかなか面白かったです。いまはうちの庭のドバトがちゃんと子育てできればいいなと思っています。

★下川拓美くん

家の周りではツバメが見られないのに、ビオトープの周りではたくさん見られました。たくさん種類の鳥が見つかって、びっくりしました。



6. ビオトープ関連：「山口県のトンボたち」 （管 哲郎 記）

(5) ベッコウトンボ (*Libellula Angelina Selys*) トンボ科ヨツボシトンボ属

外国では朝鮮半島、中国に分布し、国内では福島・新潟県以南の本州、四国、九州に分布します。産地は限られ環境省の絶滅危惧種に指定されています。山口県では 4月上旬～6月下旬に数は少ないのですが、まだあちこちに見られます。大きさはシオカラトンボほどで、ヨツボシトンボの仲間です。意図的に採集した場合には 50 万円の罰金刑が付加されており、ツシマヤマネコなどと同等の扱いを受けた、大変貴重なトンボとなっています。

公の場所としては、山口市阿知須きさら浜自然観察公園で見られます。数年前より数が増え、公園でもはびこったヨシを刈ったり焼き払ったりと、ベッコウトンボの棲息に適した環境づくりを行っています。ぜひ一度観察に出かけてはいかがでしょうか。その他の場所の公表はここでは差し控えますが、ガマやショウブ、イグサなどの生育する植生豊かな少し大きめの池を好むようです。筆者も毎年環境省に捕獲の許可証を申請し、マーキング調査や数の計測、棲息場所の特定作業を行い、グループで集計し報告しています。

成虫は成熟すると黒く変色します、ハラビロトンボとよく間違われますので、気を付けてください。親子で昆虫採集の折、うっかり本種を採集してしまった場合には、許されますので御心配には及びません。生きていたらすぐ放してください、死んでしまった場合には標本にし、個人で所有するまでは許されても、人に見せたり、学校へ展示したりはできません、公になった時点で罰金が科せられますので、その場で捨てておかれた方がよいのかもしれない。



ベッコウトンボ成熟♂、翅の模様、大きい



ベッコウトンボ成熟（♀）



ハラビロトンボの成熟♂、翅が透明



ヨツボシトンボ成熟♂、黒化せずホシが小さい

7. 会よりの連絡事項 (事務局より)

(1) 5月5日(第一日曜日)は25年度初の維持活動の草刈が出来ました。須賀河内川周辺の土手はホタルの産卵を妨害しないため草刈もままならず、近辺の刈った草も処分できずそのまま置いています。

樅(カシ)・橡(クヌギ)・檜(ナラ)や照葉緑樹等の新葉が生え換わり、落葉が頻繁に水車水路の流れを阻害しております。二日と開けず流れを阻害している葉っぱの溝上げをしております。訪問されたら、この辺りも気をつけて戴きたく思います。

5月9日は駐車場の刈った草の処分を吉富匡会員と車地の原田武応援の3名で処分(焼却)しました。

8. 編集後記

先日ビオトープの活動に約4カ月ぶりに(!)参加しました(なかなか参加できずすみません…)。皆さんが草刈りに励まれる中、「大野さん、お湯をわかしてえね。(休憩中のお茶用)」とのお声が…。皆さんが作業されている間、一人のんびり火の番だなんて、申し訳ないと思いつつ、「あら、でも今日は一人でしなければいけないのか、これはちょっと心配。いつもは松本さんや中本さんにひっついてしていたのが、これはしまったな…」と思いつつ、火の番をしておりました。松の枝など枯れ木がたくさんあり、火は順調に燃えています。これは具合いいわ♪ 火の周りも少し、キレイにしちゃえと、まだ乾いていない刈られた草を少し(?)いれたら…。!!!大変です。みるみる火が消えてしまいました…。「ああ、火をつけないと、まだやかんのお湯がわいていない…。」

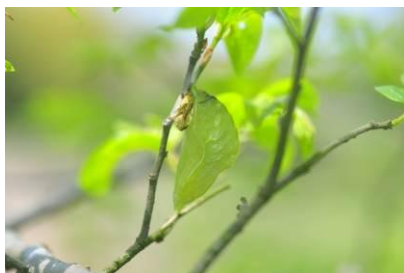
あせって火をつけてみたものの、なかなか継続して燃え上がりません。何か仰ぐものは…、焦ります。そこへ原田さんが竹筒を持ってきてくださり、吹き方のコツを教えてくださいました。するとみるみると力強い炎が燃え上がりました!「なんてすごい、竹筒って!!!」うちわよりもさらになんてすばらしい威力なのでしょう。バーベキューなど火起こしではうちわで必死に仰いでましたが、こんな時は絶対竹筒だ!と、あらためて竹筒の威力を感じた日でした。

(大野 靖子 記)

～お知らせ～ 観察隊より < エノキにゴマダラチョウの幼虫が >

ビオトープ内に育つ1本の”エノキ”に、ゴマダラチョウの幼虫が確認されました!

5月5日、維持活動の日に関根会員が見つけた、皆で調べたところ数匹の幼虫と3~5個のサナギが見つかりました!サナギより成虫へは約2週間が必要です。20日過ぎには成虫になっていると思われます、蝶が見られるかも? 成虫は図鑑で見てね!



← サナギ
幼虫 →

